

中村圭介の活動報告

Vol.3
2018年5月
～2019年4月

嬉しいご報告です。ようやく那覇でも地域の課題を地域で解決できる仕組みを創ろうという機運が高まってきております。小学校区をおまかな単位とした「小学校区まちづくり協議会」が8団体に増え、さらに今後も増えていく見通しです。市民と行政との対話、協働がすべて上手くいっているわけではありませんが、少しずつ、まちづくりの仕組みが変わり、まちの姿が変わっていきます。市民活動の支援をはじめ、私たちの暮らしを親身になって応援する行政へと変えていけるように、今後も頑張ります。



2019年の自己紹介

- 無所属の会 幹事長
- 総務常任委員会 副委員長
- 広報参画部会 部長
- 議会だより編集委員会 委員長
- 犬猫議連 事務局次長
- 城西小学校区まちづくり協議会 事務局次長
- 那覇市協働大使 ※2
- 那覇市協働によるまちづくり推進協議会運営委員

那覇市議会議会

報告会の改善を目指す

那覇市議会が年2回を目途に開催している議会報告会および市民との意見交換会。昨年5月の第11回を終えて、次回開催を半年間延期することになりました。これまでの議会報告会のあり方を検証し、より良いものにするためとは言え、年2回行ってきたものを中断するのは部会長としては悔しい決断でした。広報参画部会※1での議論を経て、議会改革推進会議で承認され、検証期間に入りました。

半年間の結論

様々な意見があった中で決まったことは、1、班の数を現状の4班から5班に増やす。2、会場アンケートをリニューアルして次回以降に反映させる。ということでした。文字にすると簡単というのではないのですが、一進一退の議論の中でようやく見いだせた一致点でした。議会改革の難しさに直面しながらも、少しずつでも、市民と議会の距離を近づけられるように頑張ります。

サロン参加者募集中

サロンは市民と議会との距離を近づける入り口として、また、市政について継続的な話が場となることを目指して市内のカフェ等で開催しています。今後も続けてまいりますので、ぜひご参加ください。

参加するには？

サロンの開催は不定期です。SNSやブログ等で開催の告知を行います。お申込みは不要ですが、会場の準備の都合もありますので事前にお知らせいただくと助かります。



▲クラゲサロン



▲チェロデサロン



▲ねこのはなし

第12回 那覇市議会報告会 ※2

市民との意見交換会

5/22 19:00-20:30 水曜日

会場：くもじ・にじいろ館

5/22 19:00-20:30 水曜日

会場：西水ふれあい館

5/23 19:00-20:30 木曜日

会場：沖縄大学 本館1階

5/23 19:00-20:30 木曜日

会場：豊里支所 会議室

5/23 19:30-21:00 木曜日

会場：屋小中学校 地域連携室

※1 参加費不要です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
※2 参加費無料でご参加される方は、5月6日（水）までに、那覇市議会事務局へお申し込みください。

お問い合わせ：098-862-8194 / Fax 098-862-8206
Eメール: sakuragis@city.naha.okinawa.jp / sakuragis@city.naha.okinawa.jp

注釈

※1 ■広報参画部会…議会改革のために設けられた議会改革推進会議という組織の中で、議会報告会や広報・広聴についてなどを所管する部会組織。広報参画部会の他に、議会改革部会、政策検討部会がある。全議員のうち、各会派代表1名と3部会長で議会改革推進会議を構成する。その他の議員はいずれかの部会に所属する。常任委員会が改選となる2年で部会も改選される。

※2 ■那覇市協働大使…協働によるまちづくりを実践している方に、これまでの活動に敬意を表するとともに、今後の更なる活躍を期待して、那覇市から委嘱を受けている方々のことです。平成20年度から協働大使の委嘱を行っており、平成31年4月末現在で780名の方々が協働大使として活躍しています。（中村圭介は平成30年度的那覇市民協働大学院を卒業し、協働大使を拝命しました）

校区まちづくり協議会 進展!!

「地域の課題を地域で解決できる仕組みをつくる」

これは最初の選挙から訴え続けてきたことのひとつです。

従来の自治会の枠を超えた新たな地域組織として「校区まちづくり協議会」（略称：校区まち協）があり、この取り組みがどんどん広がっています。

モデル事業が認められ、形を変えながら本格スタート。実施校区も4校区から8校区に増え、市内全36校区での結成を目指しています。

運営補助金も2019年度からは事務局人件費が加算されるなど、支援が強化されてきています。

まちづくりコーディネーターの必要性や、協議会立ち上げ支援の在り方など、議会でも提案してきたことが市の考へに反映されてきたことは、とても嬉しく思います。

校区まちづくり

協議会とはどんな組織？

地域の課題解決の中心を担う自治会加入率は年を追うごとに下がり16.7%（平成30年4月時点）となっており、自治会がない地域も多くあります。

そこで那覇市では、自治会や学校のPTA、企業等の地域の組織に加えて、民生委員・児童委員や地域包括支援センター、NPO等、様々な分野の組織や個人が参加できる形でつくる「校区まちづくり協議会」の結成を支援しています。

地域の課題と言っても、行政がすべて対応できるわけではありませんので、地域の課題にいち早く、多くの関係者で取り組むことができ、地域の実情に合わせた形で地域づくりが進められる校区まちづくり協議会が必要なのです。

参加団体例

特徴：多様な参加者が団体の垣根を超えて地域の課題解決のために連携できる！

自治会
通り会
老人会
婦人会

自主防災組織
交通指導員

公園、道路ボランティア
エコライフサポーター

民生・児童委員
健康づくり推進員

協働大使
協働大学
協働大学院

NPO
個人・企業

等

発展のためにはまちづくり
コーディネーターが必要になる

校区まち協の特徴

●多様で柔軟な組織

従来の組織だけでは解決が難しい地域課題に対して組織を越えて一緒に解決に当たれるようになります。

また、地域によって構成団体も変わります。地域の実情に合わせて柔軟に組織できることも特徴のひとつです。

●参加するには？

校区まち協は、小学校や公民館等で集まりを持っています。現在は与儀、石嶺、若狭、銘苅、曙、仲井真、小緑南、城西の8校区が結成されており、その他、設立に向けた準備会をしている小学校区もあります。市には「まちづくり協働推進課」という部署がありますので、お問い合わせいただき、活動に参加していただければ幸いです。

まちづくり協働推進課

TEL: 098-861-3846

城西小学校区の場合

私も参加している城西小学

校区まちづくり協議会は平成29年度から設立に向けた準備会を重ね、平成30年度から活動しています。

城西小学校区まちづくり協議会の中には、6つのプロジェクトチームがあります。10月14日には、龍潭を楽しむ会を開催し、城西小学校の児童生徒と一緒に龍潭周辺の清掃とミツバチの採蜜体験会、龍潭の昔話などをしました。その他にも大運動会や地域懇親会、街歩き、交通問題検証、フラワーポット事業など、様々な取り組みをしています。



▲龍潭を楽しむ会での清掃



▲大運動会のひとコマ

校区まち協の課題

●巻き込みが大事

協議会の立ち上げに向けて、地域へ声かけをするのようになりますが、この時にどこまで多くの団体や個人を巻き込めるかで、その後の活動の規模が変わります。立ち上げ後に巻き込み拡大するよりも、じっくり合意形成をして多くの参加で始める方が、自分事として取り組みメンバーが多くなりますし、取り組みに対する地域の理解も向上します。

●コーディネーター育成

協議会の話し合いや実際の活動を調整できるまちづくりコーディネーターの有無で成果が大きく変わります。なほ市民協働大学院などの事業を通して育成を目指していますが、さらなる拡充が待たれます。

課題解消に向けて

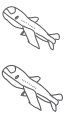
●協議会立ち上げの支援

全校区での設立を目指す際には、中核となる組織がなく結成が難しい校区もあるのでその校区への支援を厚くする必要があります。また、地域によっては既存の団体と役割が重複することもありますので、まち協の名称にこだわりすぎずに役割を意識して支援していくことも大事になると考えます。

●協働の拠点を充実

市民活動の支援やまちづくりコーディネーターの育成に欠かせない「なほ市民活動支援センター」をさらに充実させることで、校区まち協の活動がさらに活発になります。現状ではまだ不十分ですから、拠点としてしっかり機能するようにさらに力を入れるべきだと考えます。

会派合同視察

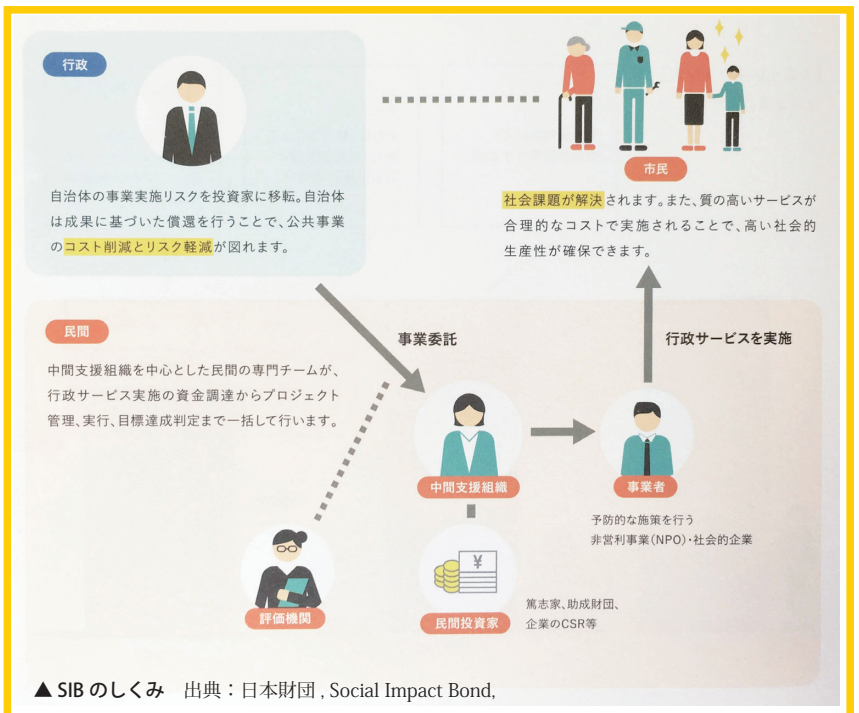


2019年1月30日～2月1日
の2泊3日の日程で会派合同視察
に行ってきました。（無所属の会
＋維新無所属の会）

今回はソーシャルインパクトボ
ンド（SIB）について視察しま
したので、改めてSIBについて
ご紹介したのち、視察についてご
報告いたします。

SIBについて

SIBとは、行政から民間へ事
業を委託する際の手法の一つで、
事業の成果を評価して可視化し、
それに評価結果と支払を紐づけた
成果連動型民間委託契約のひとつ
です。その中で特に民間から資
金を調達する場合がSIBとなり
ます。事業が成果の有無によって
行政が費用を補填するということ
は、私たちの税金で行われる事業
が成果に連動した使い方ができる
ことにつながります。



社会課題の解決のために、行政は
税金を集めているわけですが、その
成果はどうなっているのか。その成
果がわからなければ、税金を有効に
使えたのかわかりません。事業の目
標を決め、評価をし、事業の成果に
基づいてお金を出すという点、そし
てその資金に民間の力を活用するこ
う点が新しい取り組みです。

数字で成果が測れる分野について
は導入がしやすいのですが、教育や
福祉など、成果を長期的に見ていく
必要がある分野では、新たな評価の
仕組みを生み出す必要があります。
新たな評価が適切なのか、その結論
が出るのはまだ先ですから、まさに
これから実践を経ながら活用が模索
される事業手法です。



視察日程

初日

兵庫県神戸市にて、SIBについて、（糖尿病性腎症の重症化予防の事業でSIBを活用している）協働と市民参画の推進について視察

二日目

兵庫県尼崎市にて、SIBについて視察

（訪問支援アウトリーチにより若者の就労を目指す事業でSIBを活用している）

三日目

岐阜県可児市にて、可児市文化創造センター *ala*（アーラ）と子育て健康プラザ *mano*（マーン）を視察



▲神戸市役所での様子

視察の詳細はブログで

QRコードを読み取って
ブログへアクセス！



SIBの現在地は

SIBは将来的な自治体の財政負担を減らす事業手法として注目されていますが、実際には事業をコーディネートできる団体が少なく、官民がしっかり連携を取りながら実績を作って検証していく段階だということでした。

また、事業にあたっては検証可能な指標を作り、それに到達したかどうかで評価する仕組みにしなければならぬため、従来の事業と支援者の重複を避ける必要があることは注意しなければなりません。

神戸市の職員からは「SIBを活用することで事業の成果を見える化できる」ことが大きな変化だったという意見がありました。また、尼崎市の職員からは「官民連携のサービス提供成果指標の開発による事業成果の可視化」と、「成果志向の資金の流れを生む」ことに意義があるとしながらも、あくまでも手段としてSIBを活用すべきで、目的ではないことを強調していました。

まとめ

既存の事業の改善、というのではなく求められる成果を意識して再構築していく。市民がまちづくりの主体となる流れのなかで、官民連携を推進するうえで行政がやるべきことについて議論を重ねながら、住みよい那覇を目指していきたいと思いを新たにしました。

また、*ala*（アーラ）では、これまで文化に対する投資の効果は貸館の収支では測れなかったそうですが、近年は社会的投資収益率という指標を用いることで事業の効果を数字で表すことができるようになってきたというお話が印象的でした。

初日、二日目と視察したSIBの社会的インパクトの評価の部分とのつながりも見え評価指標の開発の可能性を改めて感じました。



▲尼崎市役所での様子



▲可児市の *ala*（アーラ）

もつと伝えたい 議会だより！

議会だよりに掲載していることは、質問のごく一部です。下に例として代表質問の発言通告（質問の概要を書いたもので事前に提出）と、その時の議会だよりを紹介します。

通告に沿って、それぞれの質問に対して行政から答え（答弁）が返ってきます。議場ではその答弁に対する再質問（もちろん再質問の内容は通告にはありません）もあり、やり取りを通して質問が追及や提案になります。

議会だよりには何を載せるのかは自分で選べるので、限られた文字数の中で発言の趣旨を変えずにギュッと詰め込んでいきます。しかし、全然入らないので、毎回断腸の思いで選んでいます。議会だよりを読んでいただければ嬉しいのですが、さらにお時間が許せば動画でご確認いただければ幸いです。

平成30年6月定例会代表質問発言通告

1 協働によるまちづくりについて

（1）NPO等に対する中間支援の取り組みが弱いと感じる。団体設立支援や運営支援についての取り組み状況を問う

（2）人材データバンク実施に向けて、マッチングの契機となるような「市民が集う機会」を創出してはどうか。見解を問う

2 文化行政について

（1）今後の市の文化情報の提供と発信の仕組みづくりについて、当局の考えを問う

（2）学校における美術の鑑賞教育について現状と課題を問う

（3）美術系の学芸員採用の検討について見解を問う

3 中心市街地活性化について

中心市街地活性化に関する基本計画は、ご参加いただいた委員に、計画に関連する各事業を個別に賛否をとったのか問う



▲質問の動画が見られます

協働によるまちづくりの充実に向けて

無所属の会

中村 圭介



1 人材データバンク実施に向けて、市民同士が実際に顔を合わせ、まだ出会ってない人同士の交流が新たな発想を生むような市民が集う機会を創出してはどうか、見解を問う。

2 市民に開かれたアート系のワークショップのような創造性の高い事業のほか、市内公共施設に点在する厳しい環境に置かれた美術品の最低限の管理のためにも学芸員が必要だと考える。美術系の学芸員採用の検討について見解を問う。

□市長・関係部長

1 人材データバンク事業については、本格的運用に向けて、モデル事業を実施しながら庁内のワーキングチームが議論を重ね、準備を進めている。

今年度は、情報伝達に欠かせないホームページの充実を図り、既存の団体に属さない、市民のボランティアをしたいという声とボランティア人材を求める声を広く拾い上げる取り組みを進めながら、議員提案の市民が集う機会の創出についても今後検討していきたい。

2 本市の美術に関する事業の実績からも、市民の美術・芸術に対する関心の高さを伺い、知ることができる。議員ご指摘の美術系の学芸員などの専門家の活用については、関係者と調整を図りながら調査研究していきたい。

▲特に伝えたい項目や、良い答弁が引き出せたと思った質問を載せるようにしています。

平成30年6月定例会一般質問

1 地域包括ケアシステムの構築について

2 公民館行政について

3 指定管理者制度について

1 この時は新しくできた施設も含めて市内4地区の地域包括支援センターにお話を伺い、それを基に現状の課題と今後の課題について質問しました。2ではもつと地域に開かれた公民館について。3では指定管理者制度の見直しについて問いました。



平成30年9月定例会一般質問

1 第一牧志公設市場周辺アーケードについて

2 防災行政について

3 環境衛生行政について

1では第一牧志公設市場周辺のアーケードについて、再整備する場合の行政のやるべきことについて都市計画、消防法の面から明らかにしました。2はペット防災について。3では獣医師の拡充の必要性を訴えました。



平成30年12月定例会代表質問

1、市長の政治姿勢について

2、市民と市長との対話について

3、市政の広報について

市長選の直後の定例会だったため、2期目は協働によるまちづくりにどのように取り組むのか。2では市民との対話について、3では広報への市長の参加について問いました。



平成30年12月定例会一般質問

1、人権教育について

2、衛生行政について

3、市立病院について

1では子どもの貧困対策からさらに踏み込んで「子どもの権利条例」について問いました。2では首里のハブについてどう共生していくのか対策を問いました。3では協働の観点から「ホスピタルアート」について問いました。



平成31年2月定例会代表質問

1、市長の政治姿勢について

2、協働によるまちづくりについて

1、2共に協働プラザ内のは市民活動支援センターの活用について問いました。開館から4年が経つのにまだ活気がないセンターに本気で力を入れて協働の拠点にしてほしいと訴えました。企画、照明から空きスペースの活用、センター長の民間登用など、様々な点について提案をし、そのいくつかは取り入れていただけそうです。



平成31年2月定例会一般質問

1、福祉行政について

2、周年事業について

3、協働によるまちづくりについて

1では医療的ケア児について、今後の対応について問いました。2では那覇の市制100周年について、市民の持つ写真を収集しようと再度提案しました。また日南市との姉妹都市締結50年について問いました。3では人材データバンクとコミュニティビジネスへの支援について問いました。



犬猫議連活動中！

犬猫殺処分ゼロを目指す那覇市議会議員連盟（21名が所属）では、動物愛護団体との意見交換や、勉強会等を行っています。平成30年10月10日には沖縄県警本部へ頻発する動物遺棄・虐待への取り締まり強化を要請しました。また、平成30年から2年連続で沖縄県が主催する捨て犬捨て猫防止キャンペーンに協力し、街頭啓発を行っています。



▲街頭啓発活動の様子

もつと政治を身近に

平成30年度は県内各地で選挙があり、沖縄県知事選挙もありました。今回も選挙ライターの宮原ジェフリーさんと一緒に安里にあるG-shelterで選挙について考えるイベントを開催しました。投票の際に確認しておくことなど、選挙への向き合い方について話をし、新聞にも取り上げていただきました。

また、公共交通を考える円卓会議を3月9日に開催しました。今回は、長く言われ続けてきた「公共交通が不便である」ということから一歩踏み込んで、「おでかけは権利である」という観点から様々

なお話をいただきました。現状の課題と、行政としてできること、特に都市計画の面から今日の公共の役割を考える機会になりました。



▲イベントのフライヤー



▲選挙イベントの様子



▲円卓会議の様子



▲円卓会議のチラシ

中学校に向いて職業の話をする「お仕事先生」にも参加しています。サロンだけでなく、様々な機会を通して市民と政治をつなぐ活動を続けていきます。

なは市民協働大学院

平成30年度は市の事業であるなは市民協働大学院に参加しました。この事業は、まちづくりのコーディネーターを養成することを目的としており、地域や所属を越えて様々な人が参加していました。議会で「地域に協働の担い手を増やす事業をするべきだ」と提案していたことが形になったばかりか、回を重ねて事業の企画に市民が関わるようになり「議員も参加すべき」との声があがったことは嬉しい限りです。

今年はグループごとに地域への提案を作るというプログラムで、半年の間に20回近くの集まりを持ち、提案をまとめていくのはとても大変で楽しい取り組みでした。私たちのグループは曙小学校区まちづくり協議会に対して地域づくりの担い手を育てる提案をしました。

世代を超えてバトンで「つながる」まちづくり
なは市民協働大学院成果発表
チームがじゅまー

▲協働大学院提案資料より

自立歩行でてくてくと

前回の報告書で一番反響があったと言っても過言ではない息子の子供ですが、おかげさまですくすくと育ち、ご飯も手づかみでモリモリ食べるし、散歩に行けば私の手を振りほどいててくてくと歩いていくまでに成長しました。会話まではもう一歩という所ですが、単語に反応してうなずいたり、それなりに意思疎通も図れてきています。外が好きで、私と同じく散歩が趣味になるかもしれません。



(中村圭介)

インフォメーション

現在、ホームページをリニューアルしようと打ち合わせを続けております。2019年秋頃を目標に、リニューアル予定です。

これまでバラバラにあった情報を一か所にまとめて、わかりやすい情報発信を目指します。

ホームページ

nakamurakeisuke.com



「中村圭介のだいたいしゃべる日記」で検索

t

twitterで「Kei_naha」で検索

ラジオ

「中村圭介対話の時間」毎週木曜日夜10時放送